

「ニライ・カナイの海」を読んで

三年生

親 「読んでどう思った？」

子 「カメがいつししょうけんめいあなをほってたまごをたくさんうんでも海に帰れなくて死んでしまうことにびっくりした。」

親 「そうだね。母ガメががんばって産んでも海に帰れなかったり、海に戻れても、つり糸やつりばりで生命のきけんにさらされているのは、悲しいよね。海の生き物を守るために出来ることは何があると思う？」

子 「海に行ったときは、ゴミひろいをするとか、魚を見つけたら見るだけにする。」

親 「それはいいね。皆で海の生き物を守る努力することは、とても大事だね。海だけではなく、生き物を守るためにも、ゴミ拾いやゴミを出さないようにすることは、とても大切なことだよ。」

子 「この本を読んでいろんなことを知れたからこれからいろんな本を読んでいきたいです。」

「バンビ」を読んで

三年生

親 「この本を読んで心にのこった事はなに？」

子 「バンビのお母さんが、死んだ所がかわいそうと思った。」

親 「かわいそうだったね。だけど、お父さんや、ほかの動物たちとふれあったりして、バンビの気持ちは、どんなだったと思う？」

子 「さみしい気持ちを少しだけ忘れて、みんなとあそんでいるすがたがたかさん思いうかんだ。」

親 「バンビのまわりには、たすけてくれるお友だちたくさんいてよかったね。」

子 「わたしのまわりにもたすけてくれるお友だちがいるよ。たすけてもらうだけでなく、わたしもたすけてあげてみんなとなかよくすごしたいな。」

「ニライ・カナイの海」を読んで

三年生

この夏、わたしたち家ぞくは走島という島に遊びに行きました。とも
のうらからフェリーで三十分の所にある島です。ニライ・カナイの海を
読んだ時、すぐに走島のことを思い出しました。

走島と沖なわはたくさん共通点があります。なみの音や鳥の鳴き声、
きれいなシーグラス、そして自分自しんがかんじたのは島の人のやさし
さです。一緒に荷物を運んでくれたり、海での遊び方を教えてくれたり
しました。海がめの話を読んだ時、島の人が海がめをほっておかずに助
けたことがすごいと思いました。それと同時にこの海がめみたい困っ
たことやつらいじょうきょうの生き物が他にもいるんだと思うと悲しく
なりました。島や海は人の手できたなくもなるし、きれいにもなります。
走島や沖なわのふうけいを思い出すたびに人のやさしさも思います。
これから先、海はもちろん自分の住んでいるまちもきれいにたもてるよ
うにしたいです。

「バンビ」を読んで

三年生

親 「この本を読んでどう思った？」

子 「バンビは森が火事で川にとびこんだのがすごいと思った。」

親 「勇気がすごいと思ったんだね。ママは最後双子の子ジカが生まれ
た所が〇〇と●●と重なってて不思議な気持ちになったよ。他に
印象に残った所はある？」

子 「人間がてつぼうでねらっていて一生けん命走っているのがすごい
と思う。」

親 「バンビ達(動物)は人間から、逃げていたよね。なんで人間は鉄砲
でバンビのお母さん達を撃ったんだと思う？」

子 「バンビはしかだから、しかの肉を食べたかったからだと思う。」

親 「そうか。いろんな動物の命を頂いて生きているから感謝しないと
いけないね。」

子 「うん。たとえば魚を切ってさしみになっているってことだから海の
いきものにかんしゃしないとね。」

「ニライ・カナイの海」を読んで

三年生

子

この本を読んで、心にのこった所は、おきなわでは、かぎをかけないという所が気になりました。
かぎをかけないということは、とても平わなんだと思いました。

親

この本を読んで、あゆむの心の成長や変化を感じ取ったように思います。自分の住む東京でのあたり前のことが、沖縄では違うこと。また、沖縄での体験や自然がもたらした神秘的な出会いがとても印象的なのが伝わりました。色彩やかなきれいな鳥や幻の島ニライカナイは、私も一度は見てみたいと思う程でした。

東京では味わえない美しい自然に心を動かされ、自然や動物と共存していきながら、日々感謝をする。そんな大切な気持ちを私達もあゆむと同じように忘れず、心に止め、成長への糧にできるようにしたいと思います。

子ども達にも、こんな心に残るような経験にめぐり会って、きれいな心をもっともっと大きくもって成長して欲しいと願います。

「バンビの気持ち」を読んで

三年生

子

バンビを読んで、バンビの気持ちになって考えてみました。はじめて目にした人間がおそろしくかんじました。それは、お母さんがうたれたからです。生まれてから、出会ってきた皆さんの生きものたちは、すぐに、友だちになれたのに、人間はちがったからです。せい長していくうえで、いのちのきけんを学びました。

親

今回は、バンビの気持ちになって親子で考えてみました。初めて体験する事が新鮮で時には残酷な結果となる事もあり、子供からいずれ家庭を築くまで、体の成長だけでなく心の成長についても親子で学べました。最後の一文にある「たくましいオジカ」と表現されている文面からも、今後、バンビが森の中で頼りになる存在へと成長していると確信しました。